

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年六月度 入選句（投稿総数一八九二句・一般投句数五四七句）

特選 選者 伊藤 百雲

半袖の二の腕 白き力こぶ 不破郡垂井町 高木 紫雲

ユ一モアがあり、何となく心が明るくなる句。「二の腕白き」から、女性が句の中に隠されているのがおもしろい。「力こぶ」に生き生きとした感あり。

よろづ屋の奥に眠りし竹婦人 大垣市 中山 あや子

今、使はれて居ないものを使はれ居るような感覚での作句でおもしろい。歳時記には、夏の夜、寝るときに抱きかかえたり、足をもたせたりして涼をとるためのもので、いかにも俳諧的で艶なる名前である。中国から伝来したものだ。今日ではほとんどみられない。作句には「眠りし」とあるので古い家系の家で見られたのであろう。

男等の声 勇み立つ宵祭 大垣市 高田 雅章

大きく動きのある句。祭の夜の楽しさがよみがえって来る。「勇み立つ」が句を大きくしている。軸も十三両揃った。市長に感謝の念を表したい。お囃しが風に乗って来る。

秀逸

- 水が水押しして青田にあふれけり 大垣市 棚橋 昭子
- 咲きのぼり堀を見下ろす立葵 大垣市 北浦 典子
- あぜ道のまつすぐ伸びる麦の秋 岐阜市 島 めぐみ
- ばら園の暗きベンチを立ち去れず 岐阜市 富永 萬里
- 麦秋の真っ只中の輪中かな 愛知県名古屋市 舘野 茂子
- 更衣二泊三日のクラス会 大垣市 傍島 隆
- 遠花火山河の闇を深めけり 長野県下伊那郡 長沼 まさし
- 神輿見に犬も赤子も連れて出る 京都府京都市 石田 江州
- 紫陽花の色に染まりし雫落つ 愛知県岡崎市 鈴木 正紘
- ふるさとの山高からず麦の秋 神奈川県座間市 桑野 岡二

入選

黙々と目指す山城新樹光  
 結納の日取りの話風薫る  
 軸来たる恵比須大黒福のせて  
 夏のれん土蔵茶房に風孕む  
 大髻落し力士の終の夏  
 噴水の玉は梢を打ちにけり  
 風鈴の軒端に揺れし紙の舌  
 ピアノ果て静寂に沙羅の花の風  
 新緑の心静まる水辺かな  
 駅つなぐローカル線の青葉風

大垣市 伊藤 美翠  
 大垣市 鶴田 信子  
 大垣市 田中 千代  
 大垣市 森川 きよ子  
 大垣市 田中 雅子  
 大垣市 小林 研  
 愛知県額田郡 平松 京師  
 岐阜市 伊藤 瑞実  
 大垣市 村田 真紀  
 福井県敦賀市 山田 美千代

入選

円卓に紅茶が二つ若葉風  
 竹の子や幼な子の背の伸びゆきて  
 誰かしら音の外れる祭笛  
 玉葱を吊りしその夜の風匂ふ  
 百合の香や昔日の夢今日の夢  
 葉桜や光受けとむ盃船  
 息のんでせせらぎ止まる若葉かな  
 ほととぎす山に一声訝して  
 だるさうな池のみづいろ梅雨入りかな  
 嫁しゆうと意見一致の桜餅

愛知県名古屋市 舘野 茂子  
 大垣市 奥田 和子  
 大垣市 棚橋 みさを  
 不破郡垂井町 竹嶋 富美子  
 大垣市 久保田 悟義  
 大垣市 澤井 国造  
 大垣市 竹野 美咲子  
 三重県四日市市 後藤 允孝  
 静岡県藤枝市 山本 紫苑  
 瑞穂市 谷 牛歩

選者吟

一粒の雫おとして額の花

百雲